

**平成25年度ステップアップセミナー
in 近畿ブロック に参加して
福島育成園支部 松村 ユカ**

全日本手をつなぐ育成会主催で育成会活動を推進していく人材養成、次世代を担う人材及び活動の底上げを図ることを目的とするステップアップセミナーが12月19日(木)に中央区民センターで開催され参加してきました。

会場では6人ほどのグループに分けられておりテーブル席になっていましたので、メモが取りやすくて良かったです。

午前中は、全日本手をつなぐ育成会常務理事の田中正博氏による中央情勢報告と、副理事長の片桐宜嗣氏による基調講演でした。

田中常務の最初のお話は、障害者総合支援法についてこの4月から新たに加わる見直し部分と施行後3年を目途とした見直しの検討の解説でした。次に「障がい者の潜在力発揮プログラムの推進」のお話がありました。ヨーロッパでは、障がい者が制作した絵画や造形作品を「芸術」と認め、高い評価を受けているとのこと。作品ひとつあたり100万円という高値で取引されているものもあるそうです。さすが多数の芸術家の巨匠を生んだお国柄です。平成26年度の予算概算要求の中に新規事業として組み込まれたそうです。



続いて、片桐副理事長のお話は、これからの育成会活動というテーマで、育成会の草創期から始まりました。差別・偏見・誤解が多くあった時代、親同士の理解と協力が実現し、今の育成会があります。血と汗と涙を流しながら活動された先人たちの賜物です。そして育成会はあくまでも「親の会」であるということ。大きな組織となっても、これまでも、今も、これからも、全国の育成会の存在・活動・運動は不可欠で、そのキーワードは「絆」ではないでしょうか?と聞われました。「絆」は「糸」と「半」、お互いに糸を半分ずつ出し合う二人三脚の姿。障がいのある本人・保護者・家族・支援者・関係者等が糸を出し合うことによ

って形成されるネットワークです。

60年前の育成会の視座から「今~これから」を展望すると、その基軸として継承すべきものは「MVP (Mission~使命、Vision~将来像、Passion~熱い想い)」ではないかとも聞われました。この「MVP」を確認しつつ、知的障がいのある人の権利擁護と必要な政策提言を行う運動体こそが育成会活動であるとお話を締め括られました。

昼食は、スワンベーカーさんのおしゃれなデザインのランチボックスでした。二種類の惣菜パン・サラダ・ラスクと、温かいコーヒー・紅茶付きで和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。

午後からはワークショップ形式で、「育成会活動で良いこと・負担に感じることを参加者で話し合いと発表をしました。近畿圏の様々な場所から参加された皆さんの意見は、やはり障がいのある子をもつ親という共通点があるので共感することも多かったです。初めてお会いする方ばかりでしたが、先輩たちの体験談を聴かせていただいたり、遠慮のない話し合いもできました。

このような場に参加した時にいつも思うことは、今やインターネットで様々な情報を画面上で得られますが、人と人がつながってられる大切さも次世代に受け継いでいってもらいたいです。そして、それは私たちが伝えていかなければならないと強く感じました。

**家族支援プログラム・ファシリテーター
養成研修に参加して**

港育成園 管理者代理 長谷 弥朋

12月20日(金)に中央区民センターで全日本手をつなぐ育成会主催の家族支援プログラム・ファシリテーター養成研修が開催されました。

今回、受講を思い立ったのは、地域で暮らす障がいのある方が支援を受けながら自立した生活が送れるようになるためには地域に巣立つプロセスだけでなく、地域に巣立つ力を養うプロセスが重要になってくるため、その基盤となる家族を支援するためのアプローチが必要だと感じ受講しました。

今まで障がいのある方を対象とした支援はありましたが、家族を支える支援はあまり重要視さえておらず、家族の機能不全や地域からの孤立、家族や本人の高齢化などの問題が多く見られていました。それらの予防をするにはワークショップが有効であり、障がいのある方の親や兄弟が個人としてその人らしく生き